

事務局の方に；いつもお世話様です。兵高教組の分会長にお渡し下さい。

高教組通信 No. 4

2007年7月06日
兵庫高教組書記局
<http://www.hyogo-kokyoso.com>

09年度/伊丹学区の総合選抜を複数志願に 08年度/大屋校は募集停止

7/6 県教育委員会会議に事務局が報告

本日午後、兵庫県教育委員会会議が行われ、「高校教育改革第一次実施計画」の後期分の具体化として、伊丹学区について2009年度から総合選抜制度を、複数志願制度に変更することを発表しました。あわせて、八鹿高校大屋校および播磨南高校の国際文化系コースの2008年度からの募集停止を発表しました。

県教委の圧力?! 市町教委の不可解な対応 市民には「総選は廃止される」と既定事実のように説明、 県教委へは「複数志願導入」の意見書を“提出”

昨年度、伊丹市教委は各地域で盛んに高校入学者選抜制度についての「説明会」を開催。参加者が「まるで総選廃止が決まったことのように感じられる」というような説明に終始しました。その一方、猪名川町教委は3月13日、伊丹・川西両市教委は5月31日に、県教委に対し「複数志願制導入」を求める意見書を提出しています。県教委の担当者によれば第1次実施計画の方向にそった意見が各市町教委から出されたので「進路指導の間に合う」この時期に発表したと説明しています。

しかし、市民から総合選抜廃止を求める声が広がっているわけではありません。来年度からの尼崎・明石両学区、2009年度からの西宮学区の総合選抜廃止に無理やりあわせるため、県教委によって各市町教委に「複数志願」導入の意見書を“提出”させたものであるといわざるをえません。

複数志願制度は「単独選抜と総合選抜の長所を取り入れた」ものではなく、競争の激化については単独選抜と何ら変わらず、また入試制度が複雑になり、中学生と保護者を混乱させる制度であることが、すでに実施強行されて学区の実態から明らかです。その導入を安易に「要請」した市町教委の姿勢も問われます。

伊丹学区は猪名川・川西・伊丹の3市町が学区となっていますが、総合選抜のもとで一部を除けば南部の伊丹市と北部の川西市・猪名川町で大きく地域区分され、比較的居住地に近い高校に通学することができ、各高校は地域の学校として育ってきています。事実上の単独選抜である複数志願制が導入されれば、電車・バスでの遠距離通学を余儀なくされる生徒が数多くでてきます。格差と貧困化のひろがりのなかで、生徒の修学権をも奪いかねない、今回の複数志願の強行は決して許されるものではありません。

町地域の声を無視した大屋校募集停止

大屋校の募集停止は、「3年間、募集定員の半分を下回った」ということを理由として強行されています。しかし地元の住民のみなさんは、存続を求める声をあげています。

募集停止によって、高校進学をあきらめる生徒のでてくるのが懸念されます。あらためて修学保障のとりくみの観点から、県教委の募集停止の条件を見直すことが必要です。